
フェアリーテイル チートかバグか？原作クラッシャーの転生記

ハッピー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フェアリーテイル
ーの転生記

チートかバグか？原作クラッシュ

【Nコード】

N2294U

【作者名】

ハッピー

【あらすじ】

記憶を無くしてフェアリーテイルの世界に転生？
いまここから新たな転生の原作ブレイカーの人生はじまる！

プロローグ（前書き）

前回はすいませんでした。

プロローグ

「ここはどこなんだ？」

気が付いたらここにいた。名前が分からない、唯一分かるのは年と日本人、それと目の前に神々しい美しい女性がたっていることだけだ。

「美しいだなんて・・・ありがとうございます」

心が読まれた！？

「いやゝホントすいませんねえゝ。なんか僕が殺しちゃったみたいなんでそっちの世界で言う転生をしてもらいます。」

転生？マジでありがとうございます！もう前世に未練なんて・・・強いて言うならフェアリーテイルの27巻買いわすれた位だし、それで能力の数は？

「うゝん、美しいって言うてくれたし・・・サービスでまあ25までならいいですよ。」

うそ！じゃあまず貴女との通信能力。それと転生後15個までの願いを叶えて下さい。あと、過負荷と異常に三種の滅竜魔法、一つ目は光の滅竜魔法、二つ目は暗黒の滅竜魔法、最後は水の滅竜魔法でチャクラや気などのエネルギー的なものはMAXにしてください。あと写輪眼と万華鏡写輪眼と白眼、千里眼、輪廻眼の混ざった眼、あつちではオッドアイで顔はいい感じに。身体能力を神以上に、さらに悪魔の実オリジナルありで十個、最後は・・・適当なの考え

てくださいね

「えっ！いいの？でも貴女じゃなくてリアって呼んでね？あとあつちでは原作半年前にいくからね。過負荷と万華鏡などのデメリットは無くしてあげる。最後の願いは・・・あなたの性転換ね・・・」

・・・は？マジ？

ちよつと、ふざけ「では、いつてらっしーい。名前は適当に決めてね？」うわあああ！

俺はあの空間から飛ばされた・・・

その名はクレア

俺はクレア・アブソリユートだ。今、フェアリーテイルの前にいる。あのあと見事に吹っ飛ばされて・・・現在フェアリーテイルの入り口に頭から刺さっている。やはりリアのせいで性転換されていた。まあ、顔、スタイル共にいいしそれ程気にしていないが。

「俺をフェアリーテイ」うるせーんだよつり目ヤロー」ちよっ「うぜえんだよタレ目ヤロー」だから「漢・漢・漢おー」プルプル・・・うるせー?」・・・シーン・・・」

俺は邪魔をしてきた好戦的な三人をチャクラで吹っ飛ばした。そしてマカロフの下へと歩いてゆく。途中でエルザに止められたが無視して行った

「初めまして、マスターマカロフ。俺はクレア・アブソリユートです。さっそくですが・・・フェアリーテイルに入れてください」
「そんなこと別に構わんが、おぬしは何の魔法を使うんじゃ?」
「そのつり目君と同じ魔法です。」

ざわざわざわざわ

一気にみんなが騒がしくなる。そりゃそうか、滅竜魔法なんてなかなかないからな。

「お前、イグニールって言うドラゴン知らないか?」
「しらん。俺の親は水竜ダイダロス、光竜シャイニス、暗黒竜ダークネスに育てられた。それとマスター、これいつてくる」

そう言うとマスターに一つの依頼書を渡し知られざる英雄を使い、翼で飛んで行った。みんなが口をあんどりと開いていたのが面白かった。

「おいっ！クレア！・・・はあ、仕方ないな。エルザ、すぐにクレアを追え」

「分かりました。マスター、ですが私はギリギリまで手を出しません。」

エルザはマスターに場所を聞きスキップで出発した。

さあて、仕事に取り掛かるかな。

俺はある雪山にきている。そこにはワイバーン七匹にキングワイバーンがボスとして君臨していた。

「天照！」

すると眼が黒いほうに不思議な模様が出てワイバーン七匹を黒炎が包み込む。

「ギャオオオオオオオオ」

ボスのワイバーンが激昂して襲いかかってきたが軽くそれをよける。

「水竜の撃爪！」

手に水を溜めてそれを高速回転させて殴る。螺旋丸が手を包んだ感

じだ。

「ギィアアアアアアア」

ボスワイバーンに技がヒットし近くの岩まで吹っ飛んだ。七匹が消し炭になり、ボスが腹が抉れて死んでいる。それらをすべて引きずりながら依頼人のいる村まで行く。流石に重いので骨折り指切りを使い持っていく。最後のあたりはエルザの視線が痛かったがまあよしとする。

エルザ side

私は今、衝撃的な光景を見ている。ワイバーンが黒い炎で燃えたりワイバーンが殴られて吹っ飛んだりそのワイバーンを引きずりながら運んだり、これは、マスターに報告しなくちゃな。

一気に原作スタート

・・・あれから半年が過ぎた。

その後、ワイバーンを村に引き渡しフェアリーテイルに戻った。フェアリーテイルに戻るとなにやらエルザがマスターに報告したみたいでマスターに別室へと連れて行かれた。そして異例の措置がとられた。

L e t ' s t h i n k i n g t i m e

ハイ。答えはまさかのS級昇格です。マスターに言ってエルザ以外には黙っけてもらった。ナツにばれたら勝負挑まれるに決まっているし、エルザとマスターしかワイバーンの事は知らないから実力を隠していれば何とかなるし。ナツにばれたら知られざる英雄でナツの眼から逃げればいいし。

その後は一ヶ月に一度S級をドバーツとやって金を稼いでいる。家は一戸建て、ルーシーより少しデカイ感じだ。荷物が散らかっても魔法ですぐにもとの場所に帰ってくれる。そんないい家に住みながら半年を過ごした。因みに家には地下修煉場があり、周りに力を知られることはない。悪魔の実の一つ目をホルホルの実にし、もう一つをオリジナル、ナノナノの実モデル原子にした。ホルホルの実の仕事で顔がばれないようにするため。ナノナノの実は自然系が良かったのと、原子が操れば色々作れるかな？と、思ったからだ。そ

して、今に至る。

さつき闇ギルドを一つ潰してきたところだ。帰り道エルザと会って一緒にフェアリーテイルに帰っている。エルザが巨大な装飾の施された角を持っている。その細身のどこにそんな力があるんだ？

「今、失礼な事を考え無かったか？」

おまえも読心術か？！

「いや、エルザがキレイだな、って思っただけ」

「そっ、そんなこと言っても何も出ないぞっ／＼」

「いやっ素で」

そんなやりとりが続き、何時の間にかフェアリーテイルに着いていた。

ルーシー side

あたし、ルーシー。この前フェアリーテイルに入っただけだから怖がっているの。いまからエルザさんって人が来るんだけどみんなが怖がっているの。一体どんな人なんだろう。

三人称 s i d e ?

ドスン、ドスン、 重みのある足音を立てながらそれらはギルドに入ってきた。

「マスターは居られるか？」

「おかえり！マスターは定例会よ」

「そうか」

エルザが手で持っている巨大な角をギルドの浴衣に置いた。

「お前たち。また問題ばかりおこしているようだな。カナ？なんと
言う格好でんでいる。飲みすぎだ！」「うつ・・・」「ビジター、踊
りなら外でやれ！ワカバ、吸い殻が落ちているぞ？」「ううう・・・」
「ナブっ、おまえはちゃんと仕事しろっ！」「すみません・・・」
まったく・・・世話がやけるな。今回は何も言わないでおいてや
る。」

しかしみんなは「」「」「色々言ってんじゃねえか」「」「と口に出
せないでいた。

クレア s i d e

エルザが色々と言っていたあと俺は姿を現した。どこにいたか？知
られざる英雄に決まっているだろ。最早、空気かしてきた。

「ハロー、エブリワン」

「」「どこにいたんだあ？」」「」

「最初からここに。」

そう言うとおれはナツ、グレイ、ルーシィやハッピー、ミラさんのもとへ行った。何故かミラさんにはさん付けしてしまう。

「よっ、ナツ」

「クレア???」

「いいかげんケンカやめたら?」

「やなこった」

「・・・ねえナツ、クレアさんって男じゃないの?」

「クレアでいい、それにこれの事が?」

そしてホルホルの実で男性ホルモンをうち、かなり良いほうの男になる。

「・・・クレアさん? / / /」

ルーシィは鳩が豆鉄砲を食らった顔になる。

「「ルーシィ、どうしたんだ?」」

ナツ、グレイ、ルーシィにかまわないであげてくれ。

「ナツ、グレイ、二人のちからを貸してくれ。」

エルザは普通は言わない事をナツ、グレイに言い放った。

一気に原作スタート（後書き）

なんか、文が変ですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2294u/>

フェアリーテイル チートかバグか？原作クラッシャーの転生記

2011年10月9日01時50分発行